netWIN ゴールドマン・サックス・インターネット戦略ファンド　Bコース（為替ヘッジなし）は、「R＆Iファンド大賞」を4年連続で受賞しました。

「R＆Iファンド大賞2020」投資信託／北米株式部門
最優秀ファンド賞　受賞

「R＆Iファンド大賞2019」投資信託／北米株式部門
最優秀ファンド賞　受賞

「R＆Iファンド大賞2018」投資信託／北米株式部門
最優秀ファンド賞　受賞

「R＆Iファンド大賞2017」投資信託／北米株式部門
優秀ファンド賞　受賞

評価基準年月日 ： 2020年3月末最優秀ファンド賞、2019年3月末最優秀ファンド賞、2018年3月末最優秀ファンド賞、2017年3月末優秀ファンド賞

「R＆Iファンド大賞」は、R&Iが信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報（ただし、その正確性及び完全性につきR＆Iが保証するものではありません）の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務（信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR＆Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。「投資信託／総合部門」の各カテゴリーは、受賞運用会社の該当ファンドの平均的な運用実績を評価したもので、受賞運用会社の全ての個別ファンドについて運用実績が優れていることを示すものではありません。

「投資信託部門」、「iDeCo・DC部門」、「NISA部門」、「確定給付年金部門」では2018、2019、2020年それぞれの3月末時点における1年間の運用実績データを用いた定量評価がいずれも上位75%に入っているファンドに関して、2020年3月末における3年間の定量評価によるランキングに基づいて表彰している。「投資信託10年部門」では、2015、2020年それぞれの3月末における5年間の運用実績データを用いた定量評価および2020年3月末時点における3年間の運用実績データを用いた定量評価がいずれも上位75%に入っているファンドに関して、2020年3月末における10年間の定量評価によるランキングに基づいて表彰している。「投資信託20年部門」では、2010、2020年それぞれの3月末における10年間の運用実績データを用いた定量評価および2020年3月末時点における3年間の運用実績データを用いた定量評価がいずれも上位75%に入っているファンドに関して、2020年3月末における20年間の定量評価によるランキングに基づいて表彰している。定量評価は、「投資信託部門」、「iDeCo・DC部門」、「NISA部門」、「投資信託10年部門」、「投資信託20年部門」ではシャープ・レシオを採用、「確定給付年金部門」では定量評価にインフォメーション・レシオを採用している。表彰対象は償還予定日まで1年以上の期間を有し、「投資信託部門」、「NISA部門」、「投資信託10年部門」、「投資信託20年部門」では残高が30億円以上かつカテゴリー内で上位50%以上、「iDeCo・DC部門」では残高が10億円以上かつカテゴリー内で上位75%以上の条件を満たすファンドとしている。「投資信託／総合部門」では、2020年3月末において残高30億円以上のファンドを3本以上設定する運用会社を表彰対象とし、各ファンドの3年間におけるシャープ・レシオの残高加重平均値によるランキングに基づき表彰している。「投資信託部門」、「投資信託／総合部門」、「投資信託10年部門」および「投資信託20年部門」は確定拠出年金専用ファンド、SMA・ラップ口座専用ファンドを除く国内籍公募追加型株式投信、「iDeCo・DC部門」はiDeCo・DC（個人型および企業型確定拠出年金）向けに利用される国内籍公募追加型株式投信、「NISA部門」はR&I独自の「NISAスクリーニング」基準を満たした国内籍公募追加型株式投信、「確定給付年金部門」は『R&Iユニバースデータサービス』に登録されている運用商品を対象にしている。

※シャープ・レシオ
短期確定金利商品に対するファンドの超過収益率を収益率の標準偏差（リスク）で割った値。リスク1単位当たりの超過収益率を示す。
※インフォメーション・レシオ
ベンチマークに対するファンドの超過収益率（アクティブリターン）を超過収益率の標準偏差（アクティブリスク）で割った値。ベンチマークと比較して取ったリスク1単位当たりの超過収益率を示す。

上記評価は、過去の一定情報を分析した結果得られたものであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

netWIN GSテクノロジー株式ファンド

Aコース（為替ヘッジあり）／Bコース（為替ヘッジなし）

追加型投信／海外／株式

2010 月次レポート

Aコース（為替ヘッジあり）

2020年10月30日現在

基準価額： 15,758 円

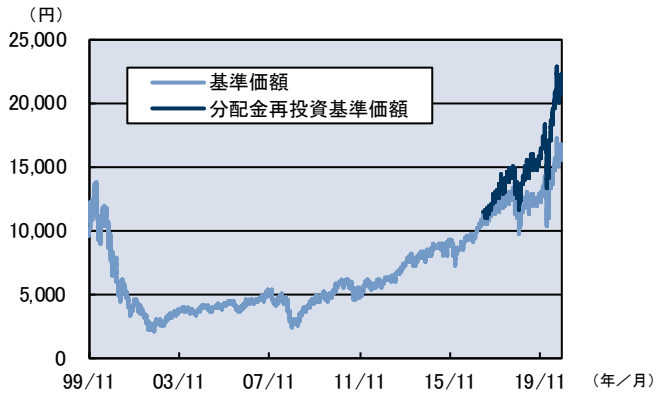
純資産総額： 1,979.8 億円

設定日： 1999年11月29日

決算日： 毎年5月30日および11月30日（ただし、休業日の場合は翌営業日）

信託期間： 原則として無期限

設定来基準価額推移



期間別騰落率（%）

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	5年	設定来
ファンド（分配金再投資）	0.36	4.36	22.94	35.20	67.67	130.94	109.99

分配金実績（円）（1万口当たり、税引前）

設定来合計： 3,500 円

決算日	17/11/30	18/5/30	18/11/30	19/5/30	19/12/2	20/6/1
分配金	500	500	500	500	500	500

上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を保証するものではありません。
上記の基準価額、分配金再投資基準価額および期間別騰落率は信託報酬（詳細は、後述の「ファンドの費用」をご参照ください。）控除後のものです。分配金再投資基準価額およびファンド（分配金再投資）の騰落率は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。運用状況によっては、分配金の金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

組入上位銘柄*1

	銘柄名	業種（セクター）*2	市場	比率
1	アルファベット	コミュニケーション・サービス	NASDAQ	9.1%
2	マイクロソフト	情報技術	NASDAQ	8.4%
3	フェイスブック	コミュニケーション・サービス	NASDAQ	6.1%
4	アマゾン・ドット・コム	一般消費財・サービス	NASDAQ	4.9%
5	アップル	情報技術	NASDAQ	4.6%
6	ペイパル・ホールディングス	情報技術	NASDAQ	4.3%
7	ビザ	情報技術	NYSE	4.1%
8	アドビ	情報技術	NASDAQ	3.4%
9	ザ・ウォルト・ディズニー・カンパニー	コミュニケーション・サービス	NYSE	2.9%
10	フィデリティ・ナショナル・インフォメーション・サービシズ	情報技術	NYSE	2.7%

ポートフォリオ構成比

資産	比率
株式	95.8%
先物	0.0%
実質組入	95.8%

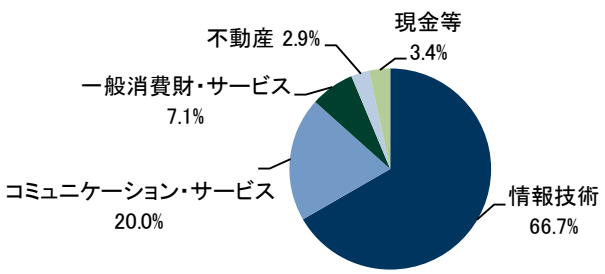
※ 株式組入比率については、各ベビーファンドのマザーファンドの組入比率とマザーファンドの株式組入比率より算出。

（注）計理処理上、直近の追加設定が純資産総額に反映されないことなどの理由により、実質組入の数値が100%を超える場合があります。

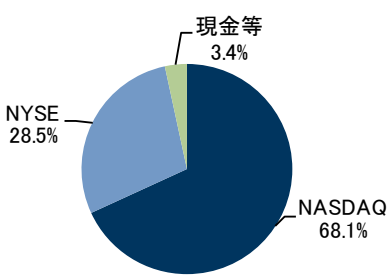
組入銘柄数*1

37 銘柄

業種（セクター）*2別比率*1



市場別比率*1



*1 マザーファンドのデータであり、比率は対純資産総額比です。業種（セクター）別比率、市場別比率においては、計理処理上、直近の追加設定が純資産総額に反映されないことなどの理由により、現金等の数値がマイナスになる場合があります。

*2 Global Industry Classification Standard（GICS®）（世界産業分類基準）のセクター分類を使用しています。

上記は基準日時点におけるデータであり、将来の成果を保証するものではなく、市場動向等により変動します。また、ポートフォリオの内容は市場の動向等を勘案して随時変更されます。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

netWIN GSテクノロジー株式ファンド

Aコース（為替ヘッジあり）／Bコース（為替ヘッジなし）

追加型投信／海外／株式

2010 月次レポート

Bコース（為替ヘッジなし）

2020年10月30日現在

基準価額： 19,310 円

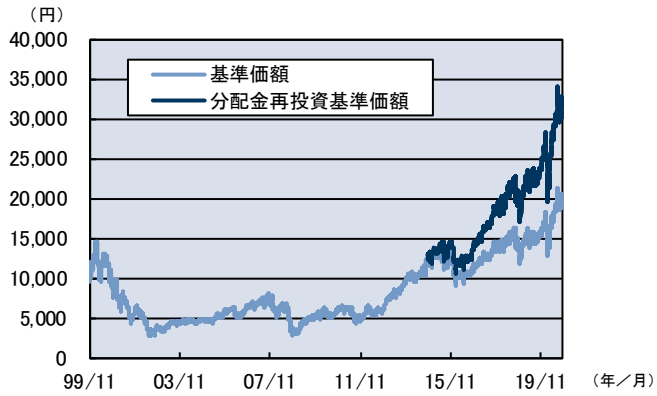
純資産総額： 5,843.4 億円

設定日： 1999年11月29日

決算日： 毎年5月30日および11月30日（ただし、休業日の場合は翌営業日）

信託期間： 原則として無期限

設定来基準価額推移



期間別騰落率（%）

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	5年	設定来
ファンド（分配金再投資）	-0.75	4.56	20.65	31.29	65.18	117.49	207.16

分配金実績（円）（1万口当たり、税引前）

設定来合計： 6,330 円

決算日	17/11/30	18/5/30	18/11/30	19/5/30	19/12/2	20/6/1
分配金	500	500	500	500	500	500

上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を保証するものではありません。
上記の基準価額、分配金再投資基準価額および期間別騰落率は信託報酬（詳細は、後述の「ファンドの費用」をご参照ください。）控除後のものです。分配金再投資基準価額およびファンド（分配金再投資）の騰落率は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。運用状況によっては、分配金の金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

組入上位銘柄*1

	銘柄名	業種（セクター）*2	市場	比率
1	アルファベット	コミュニケーション・サービス	NASDAQ	9.1%
2	マイクロソフト	情報技術	NASDAQ	8.4%
3	フェイスブック	コミュニケーション・サービス	NASDAQ	6.1%
4	アマゾン・ドット・コム	一般消費財・サービス	NASDAQ	4.9%
5	アップル	情報技術	NASDAQ	4.6%
6	ペイパル・ホールディングス	情報技術	NASDAQ	4.3%
7	ビザ	情報技術	NYSE	4.1%
8	アドビ	情報技術	NASDAQ	3.4%
9	ザ・ウォルト・ディズニー・カンパニー	コミュニケーション・サービス	NYSE	2.9%
10	フィデリティ・ナショナル・インフォメーション・サービシズ	情報技術	NYSE	2.7%

ポートフォリオ構成比

資産	比率
株式	96.6%
先物	0.0%
実質組入	96.6%

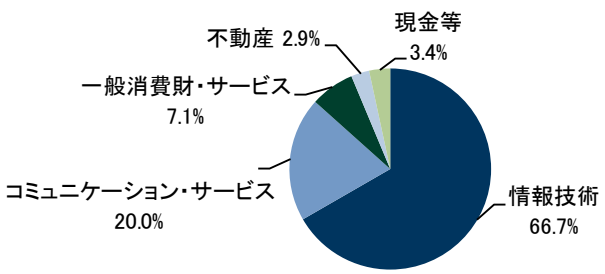
※ 株式組入比率については、各ベビーファンドのマザーファンドの組入比率とマザーファンドの株式組入比率より算出。

（注）計理処理上、直近の追加設定が純資産総額に反映されないことなどの理由により、実質組入の数値が100%を超える場合があります。

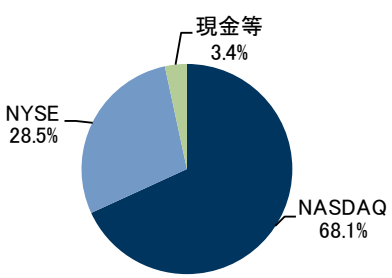
組入銘柄数*1

37 銘柄

業種（セクター）*2別比率*1



市場別比率*1



*1 マザーファンドのデータであり、比率は対純資産総額比です。業種（セクター）別比率、市場別比率においては、計理処理上、直近の追加設定が純資産総額に反映されないことなどの理由により、現金等の数値がマイナスになる場合があります。

*2 Global Industry Classification Standard（GICS®）（世界産業分類基準）のセクター分類を使用しています。

上記は基準日時点におけるデータであり、将来の成果を保証するものではなく、市場動向等により変動します。また、ポートフォリオの内容は市場の動向等を勘案して随時変更されます。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

＜netWIN 運用チームのコメント＞

2020年10月末現在

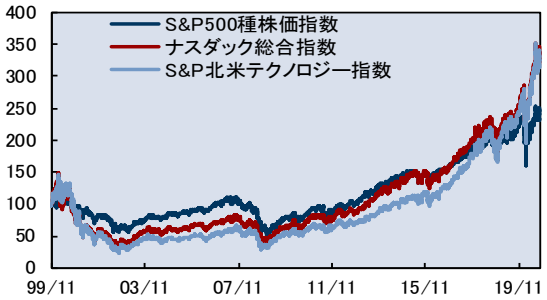
米国株式市場動向

10月の米国株式市場は、代表的な指数であるS&P500種株価指数が前月末比-2.77%（米ドルベース）となりました。

月初は、追加経済対策の与野党協議などの注目材料が多くありましたが、株式市場では総じてポジティブに受け止められ、上昇して推移しました。その後も、新型コロナウイルスに感染したトランプ米大統領の早期退院により米政治に対する不安感が後退し、加えて追加経済対策への期待も根強く、テクノロジー関連株式や景気敏感株が広く買われ、上昇基調で推移しました。しかし、中旬以降はテクノロジー関連株式に対する高値警戒感から利益確定の売りが優勢となり、軟調に推移しました。さらに、大統領選前に追加経済対策が成立するとの期待が後退したこと、欧州各国での新型コロナウイルス感染再拡大により経済活動の規制が再強化されることで世界経済に打撃がおよぶとの懸念が高まったことなども下値圧力となり、前月末を下回る水準で月を終えました。

セクター別では、公益事業、コミュニケーション・サービスが上昇する一方、大半のセクターが下落し、なかでも情報技術、エネルギー、ヘルスケアなどのセクターは相対的に大きく下落しました。

＜ご参考＞代表的な指数の推移と騰落率（%）（期間：1999年11月29日～2020年10月末）



（年／月）

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	5年	設定来
S&P500種株価指数	-2.77	-0.04	12.28	7.65	26.98	57.26	132.27
ナスダック総合指数	-2.29	1.55	22.75	31.59	62.19	115.91	218.92
S&P 北米テクノロジー指数	-2.70	0.97	22.27	33.74	79.78	169.54	212.08

S&P500種株価指数、ナスダック総合指数、S&P北米テクノロジー指数のそれぞれ米ドルベースについて1999年11月29日を100として指数化したものです。
上記は過去のデータであり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。

出所：ブルームバーグ

ポートフォリオ・レビュー

ソフトウェアメーカーのペイコム・ソフトウェアは、株価が上昇し、本ファンドのパフォーマンスにプラス寄与となりました。10月を通して、マクロ経済回復に伴う業績改善期待が追い風となり、同社株は上昇しました。新型コロナウイルスによるロックダウン後の経済回復を背景とした雇用環境の改善が、人材管理のソフトウェアを提供する同社株のサポート材料となっています。全体として、当社は引き続き同社のクラウド型ソフトウェアサービスが競合他社より市場シェアを獲得できると考えており、引き続き強気に見ております。（組入比率：2.1%）

決済関連サービスを提供するフィデリティ・ナショナル・インフォメーション・サービシズは、株価が下落し、本ファンドのパフォーマンスにマイナス寄与となりました。月末に発表された四半期決算に対する懸念から株価は下落しました。発表された決算は全体的に良好でしたが、一部の項目が市場予想を下回りました。しかし、同社のマーチャント・バンキング部門への継続的な投資は、高い収益とリターンを生み出す可能性があると考えており、当社は引き続き同社を強気にみています。今後も、同社はグローバルにおけるデジタル決済の加速および金融機関のITインフラのアウトソースのトレンドの恩恵を享受し、成長が期待できると考えています。（組入比率：2.7%）

※マザーファンドのデータであり、比率は対純資産総額比です。

2020年10月末現在

組入上位銘柄

	銘柄名	事業内容	比率
1	アルファベット	持株会社。子会社を通じ、ウェブベースの検索、広告、地図、ソフトウエア・アプリケーション、モバイルオペレーティングシステム、消費者コンテンツ、業務用ソリューション、eコマース、ハードウエア製品などを提供する。	9.1%
2	マイクロソフト	ソフトウエアメーカー。ソフトウエア製品の開発、製造、ライセンス供与、販売、サポートに従事。オペレーティングシステム、サーバー・アプリケーション、法人・個人向けアプリケーションのソフトウエア、ソフトウエア開発ツール、およびインターネット／イントラネットソフトウエアを手掛ける。テレビゲーム機、デジタル音楽・娯楽用機器も開発する。	8.4%
3	フェイスブック	インターネットメディア会社。ソーシャルネットワーク・ウェブサイトを運営。家族・友人・同僚間のコミュニケーションを可能にするウェブサイトを提供する。ユーザー間における情報、写真、ウェブサイトリンク、ビデオなどの共有を容易にする技術も開発。ユーザーは、各自の基準を具体的に設定して情報を共有・制限できる。	6.1%
4	アマゾン・ドット・コム	オンライン小売会社。多岐にわたる製品を販売する。主な製品は、書籍、音楽、ビデオテープ、コンピューター、電子機器、家庭・園芸用品など。顧客別にカスタマイズされたショッピングサービス、ウェブ上でのクレジットカード決済、および顧客への直接配送を手掛ける。	4.9%
5	アップル	パソコン、関連製品、モバイル通信機器、各種関連ソフトウエア、サービス、周辺機器、ネットワーキング・ソリューションの設計、製造、販売に従事。製品は、自社オンラインストア、直営小売店、自社販売員、サードパーティ卸売り、再販業者を通して販売される。	4.6%
6	ペイパル・ホールディングス	オンライン決済サービス会社。消費者と販売業者向けにデジタルおよびモバイル決済用の技術プラットフォームを提供する。オンライン支払いソリューションを手掛ける。世界各地で事業を展開。	4.3%
7	ビザ	クレジットカード会社。小売り電子決済ネットワークの運営、国際的な金融サービスの提供に従事。金融機関、販売業者、消費者、企業、政府機関などが相互に行う決済ネットワークやデータ転送サービスを通じて、国際的な商取引を提供する。	4.1%
8	アドビ	ソフトウエアメーカー。コンピューター・ソフトウエア製品および技術の開発、販売、サポートに従事する。印刷および電子媒体で情報の伝達・使用が可能な製品を手掛ける。アプリケーションソフトウエア製品、印字用品のほか、情報作成・配信・管理用のコンテンツを提供。	3.4%
9	ザ・ウォルト・ディズニー・カンパニー	エンターテインメント会社。メディア・ネットワーク、遊園地、消費者製品、スタジオ・エンターテインメント、消費者直結型ネットワークおよびチャンネルを手掛ける。世界各地で事業を展開。	2.9%
10	フィデリティ・ナショナル・インフォメーション・サービシズ	支払い業務サービス・プロバイダー。金融機関や小売業者向けに、クレジット・デビットカード処理、電子バンキングサービス、小切手リスク管理、小切手の換金、マーチャントカード・プロセシングサービスを提供する。	2.7%

（事業内容出所：ブルームバーグ。なお、当社が作成したものが一部含まれる場合があります。）

※マザーファンドのデータであり、比率は対純資産総額比です。

上記は当社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、当社がその正確性・完全性を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。

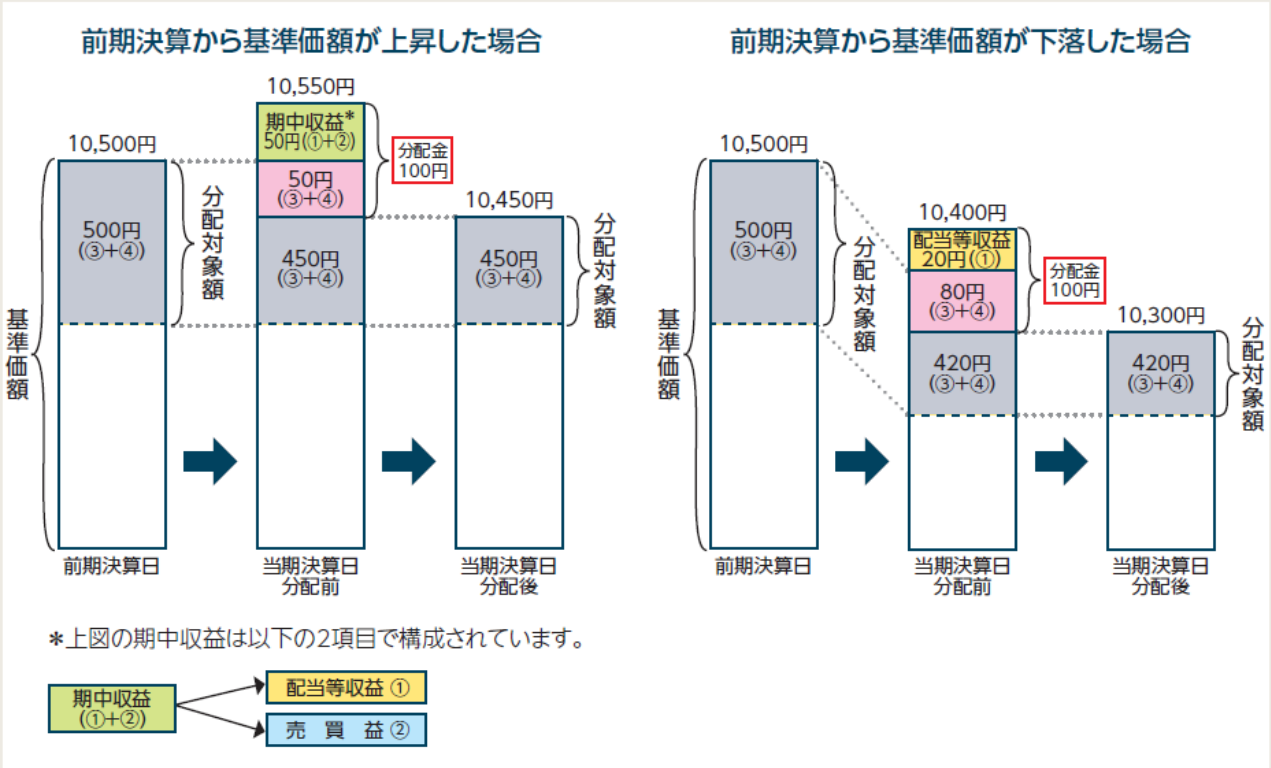
※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。お申込みの詳細については、販売会社にお問い合わせのうえ、ご確認ください。

収益分配金に関わる留意点

分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。
計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行った場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。また、投資家のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。

※分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。分配対象額とは、①経費控除後の配当等収益②経費控除後の評価益を含む売買益③分配準備積立金（当該計算期間よりも前に累積した配当等収益および売買益）④収益調整金（信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分）です。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合



※上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意ください。

上記のとおり、分配金は計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合がありますので、元本の保全性を追求される投資家の場合には、市場の変動等に伴う組入資産の価値の減少だけでなく、収益分配金の支払いによる元本の払戻しにより、本ファンドの基準価額が減価することに十分ご留意ください。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。お申込みの詳細については、販売会社にお問い合わせのうえ、ご確認ください。

ファンドの特色

1. 主にテクノロジーの発展により恩恵を受ける米国企業の株式に投資します。
2. 「よりよい投資収益は、長期にわたって成長性の高い事業へ投資することにより獲得される」との投資哲学のもと、個別銘柄の分析を重視したボトムアップ手法により銘柄選択を行います。
3. Aコース（為替ヘッジあり）、Bコース（為替ヘッジなし）の選択が可能です。

※ 主要な投資対象とする米国企業には、メディア、テレコミュニケーション、テクノロジー、サービス等のセクターにおいて、インフラ、コンテンツ、サービス等を提供する企業を含みます。なお、本ファンドにおけるテクノロジーにはインターネットを含みます。

※ Aコースは、対円での為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。なお、為替ヘッジにはヘッジ・コストがかかります。ヘッジ・コストは、為替ヘッジを行う通貨と円の短期金利の差が目安となり、円の短期金利のほうが低い場合、この金利差分、収益が低下します。Bコースでは、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

※ 販売会社によっては、いずれかのコースのみのお取扱いとなる場合があります。

※ 本ファンドはファミリーファンド方式で運用を行います。

市況動向や資金動向その他の要因等によっては、運用方針に従った運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。本ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額が変動します。また、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。信託財産に生じた損益はすべてご投資家の皆さまに帰属します。

主な変動要因

株式投資リスク（価格変動リスク・信用リスク）・集中投資リスク

本ファンドは米国の株式を主要な投資対象としますので、本ファンドへの投資には、株式投資にかかる価格変動リスク等のさまざまなリスクが伴うことになります。本ファンドの基準価額は、株式等の組入有価証券の値動きにより大きく変動することがあり、元金が保証されているものではありません。特にテクノロジー関連企業等の株式の下降局面では本ファンドの基準価額は大きく下落する可能性が大きいと考えられます。また、本ファンドは、一定の業種に対して大きな比重をおいて投資を行いますので、業種をより分散した場合と比較して、ボラティリティが高く大きなリスクがあると考えられます。
一般に、株価は、個々の企業の活動や一般的な市場・経済の状況に応じて変動します。したがって、本ファンドに組入れられる株式の価格は短期的または長期的に下落していく可能性があります。現時点において株価が上昇傾向であっても、その傾向が今後も継続する保証はありません。また、発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。

為替変動リスク

本ファンドは、外貨建ての株式を主要な投資対象としますので、本ファンドへの投資には為替変動リスクが伴います。とりわけ、対円で為替ヘッジを行わないBコースでは為替変動の影響を直接的に受け、円高局面ではその資産価値を大きく減少させる可能性があります。Aコースは、対円で為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図りますが、為替ヘッジを行うにあたりヘッジ・コストがかかります。（ヘッジ・コストは、為替ヘッジを行う通貨と円の短期金利の差が目安となり、円の短期金利のほうが低い場合、この金利差分、収益が低下します。）

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。お申込みの詳細については、販売会社にお問い合わせのうえ、ご確認ください。

お申込みメモ

購入単位	販売会社によって異なります。
購入価額	購入申込日の翌営業日の基準価額
購入代金	販売会社が指定する日までにお支払いください。
換金価額	換金申込日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として換金申込日から起算して5営業日目から、お申込みの販売会社を通じてお支払いいたします。
購入・換金申込不可日	ニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行の休業日（以下「ニューヨークの休業日」といいます。）
申込締切時間	「ニューヨークの休業日」を除く毎営業日の原則として午後3時まで
信託期間	原則として無期限（設定日：1999年11月29日）
繰上償還	各コースについて受益権の総口数が30億口を下回ることとなった場合等には繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年5月30日および11月30日（ただし、休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年2回の決算時に原則として収益の分配を行います。販売会社によっては分配金の再投資が可能です。
信託金の限度額	各コースについて1兆円を上限とします。 ※2020年8月29日に信託金の限度額を各コース5,000億円から1兆円へ引き上げました。
スイッチング	販売会社によっては、各コース間でスイッチングが可能です。 ※スイッチングの際には換金時と同様に税金をご負担いただきます。くわしくは販売会社までお問い合わせください。
課税関係（個人の場合）	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は少額投資非課税制度（NISA）の適用対象です。 配当控除の適用はありません。 原則、分配時の普通分配金ならびに換金（解約）時および償還時の譲渡益が課税の対象となります。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
購入時	購入時手数料	購入申込日の翌営業日の基準価額に、**3.3%（税抜3%）を上限**として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。
換金時	信託財産留保額	なし
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
毎日	運用管理費用（信託報酬）	純資産総額に対して**年率2.09%（税抜1.9%）** ※運用管理費用は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支払われます。
	信託事務の諸費用	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、印刷費用など信託事務の諸費用が信託財産の純資産総額の年率0.05%相当額を上限として定率で日々計上され、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支払われます。
随時	その他の費用・手数料	有価証券売買時の売買委託手数料や資産を外国で保管する場合の費用等 上記その他の費用・手数料は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきますが、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※上記の手数料等の合計額については、ご投資家の皆さまがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

委託会社その他関係法人の概要について

●ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社（委託会社）
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第325号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、
一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会
信託財産の運用の指図等を行います。

●ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・エル・ピー（投資顧問会社）
委託会社より株式（その指数先物を含みます。）の運用の指図に関する権限の委託を受けて、投資判断・発注等を行います。

●三菱UFJ信託銀行株式会社（受託会社）
信託財産の保管・管理等を行います。

●販売会社
本ファンドの販売業務等を行います。
販売会社については、下記の照会先までお問い合わせください。
ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社
電話：03-6437-6000
（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）
ホームページ・アドレス：**www.gsam.co.jp**

販売会社一覧（1／3）

金融商品取引業者名		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人投資信託協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第370号	○				
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第15号	○			○	
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2251号	○		○	○	○
エース証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第6号	○				
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○			○	
岡三オンライン証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第52号	○		○	○	
岡三証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第53号	○		○		○
OKB証券株式会社(注3)	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第191号	○				
株式会社愛知銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第12号	○				
株式会社SMBC信託銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第653号	○	○	○		○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○			○	○
株式会社大垣共立銀行(注3)	登録金融機関	東海財務局長(登金)第3号	○			○	
株式会社鹿児島銀行（委託金融商品取引業者　九州FG証券株式会社）	登録金融機関	九州財務局長（登金）第2号	○				
株式会社関西みらい銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第7号	○			○	
株式会社京都銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第10号	○			○	
株式会社熊本銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第6号	○				
株式会社埼玉りそな銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第593号	○			○	
株式会社静岡銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第5号	○			○	
株式会社清水銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第6号	○				
株式会社ジャパンネット銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第624号	○			○	
株式会社十八親和銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第3号	○				
株式会社十六銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第7号	○			○	
株式会社荘内銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第6号	○				
株式会社新生銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○			○	
株式会社千葉銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第39号	○			○	
株式会社中京銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第17号	○				

販売会社一覧（2／3）

金融商品取引業者名		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人投資信託協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社中国銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第2号	○			○	
株式会社東京スター銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第579号	○			○	
株式会社栃木銀行(注3)	登録金融機関	関東財務局長（登金）第57号	○				
株式会社西日本シティ銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第6号	○			○	
株式会社肥後銀行（委託金融商品取引業者　九州FG証券株式会社）	登録金融機関	九州財務局長（登金）第3号	○				
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第10号	○			○	
株式会社福井銀行	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第2号	○			○	
株式会社福岡銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第7号	○			○	
株式会社北都銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第10号	○				
株式会社北洋銀行	登録金融機関	北海道財務局長（登金）第3号	○			○	
株式会社北洋銀行（委託金融商品取引業者　北洋証券株式会社）	登録金融機関	北海道財務局長（登金）第3号	○			○	
株式会社北陸銀行(注3)	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第3号	○			○	
株式会社みずほ銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第6号	○			○	○
株式会社三菱UFJ銀行（インターネット専用）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第5号	○			○	○
株式会社りそな銀行	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第3号	○		○	○	
九州FG証券株式会社	金融商品取引業者	九州財務局長（金商）第18号	○				
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2938号	○				
四国アライアンス証券株式会社	金融商品取引業者	四国財務局長（金商）第21号	○				
静銀ティーエム証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第10号	○				
七十七証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長（金商）第37号	○				
十六TT証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第188号	○				
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第108号	○		○	○	○
立花証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第110号	○				
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第140号	○			○	○
とうほう証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長（金商）第36号	○				
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長（金商）第75号	○				

販売会社一覧（3／3）

金融商品取引業者名		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人投資信託協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第131号	○			○	
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第142号	○		○	○	○
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第1977号	○				
PWM 日本証券株式会社(注2)	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第50号	○				○
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第134号	○				
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第20号	○				
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第152号	○				
ほくほくTT証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長（金商）第24号	○				
北洋証券株式会社	金融商品取引業者	北海道財務局長(金商)第1号	○				
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○			○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第165号	○		○	○	
丸八証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第20号	○				
みずほ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第94号	○		○	○	○
みずほ信託銀行株式会社(注1)	登録金融機関	関東財務局長（登金）第34号	○		○	○	
三井住友信託銀行株式会社(注1)	登録金融機関	関東財務局長（登金）第649号	○		○	○	
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第33号	○		○	○	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2336号	○		○	○	○
LINE証券株式会社(注3)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3144号	○			○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○		○	○	○
リテラ・クレア証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第199号	○				
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第8号	○				
ゴールドマン・サックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第69号	○			○	○

（注1）本ファンドの新規の購入申込み受付を停止しております。
（注2）Aコースの新規の購入申込み受付を停止しております。
（注3）Bコースのみのお取扱いとなります。
くわしくは販売会社にお問い合わせのうえ、ご確認ください。

本資料のご利用にあたってのご留意事項等

■ 本資料はゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社（以下「当社」といいます。）が作成した資料です。投資信託の取得の申込みにあたっては、販売会社より「投資信託説明書（交付目論見書）」等をお渡しいたしますので、必ずその内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■ 本ファンドは値動きのある有価証券等（外国証券には為替リスクもあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。

■ 本資料は、当社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、当社がその正確性・完全性を保証するものではありません。

■ 本資料に記載された過去の運用実績は、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。投資価値および投資によってもたらされる収益は上方にも下方にも変動します。この結果、投資元本を割り込むことがあります。

■ 本資料に記載された見解は情報提供を目的とするものであり、いかなる投資助言を提供するものではなく、また個別銘柄の購入・売却・保有等を推奨するものでもありません。記載された見解は資料作成時点のものであり、将来予告なしに変更する場合があります。

■ 個別企業あるいは個別銘柄についての言及は、当該個別銘柄の売却、購入または継続保有の推奨を目的とするものではありません。本資料において言及された証券について、将来の投資判断が必ずしも利益をもたらすとは限らず、また言及された証券のパフォーマンスと同様の投資成果を示唆あるいは保証するものでもありません。

■ 投資信託は預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

■ 銀行等の登録金融機関でご購入いただく投資信託は投資者保護基金の支払対象ではありません。

■ 投資信託は金融機関の預金と異なり、元金および利息の保証はありません。

■ 投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様が負うことになります。